

◆台東区基本構想 検証シート

生涯学習

基本理念	多様で快適なまちづくり
将来像	Ⅱ いきいきとした個性あるまち
基本目標	3 学びと交流の仕組みづくり
	<p>社会の動向は、人々の価値観や行動様式が多様化する中、生涯学習への意欲が高まっています。そのため、台東区では、すべての区民が生涯にわたって自ら学習し、心の豊かさや生きがいのある生活に取り組んでいく環境づくりをめざします。</p> <p>この基本目標を実現するために、生涯学習センターを核に、区民相互が学び合い、交流する仕組みづくりを進め、地域活動の活性化やまちづくりへの貢献が図られるようにしていきます。</p>

小 柱		長期総合計画【平成17年度～26年度】検証結果 抜粋
施策名称		(10年間の主な成果・課題)
(1) 生涯学習の機会の充実		
多様な学習機会の提供 【生涯学習課】	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センターを拠点として、青少年、子育て世代やシニア世代等の各ライフステージでニーズに応じた学習機会を提供しており、参加者数等は概ね順調に推移している。 シニアライフ応援計画により、シニア世代の学習意欲を高めるとともに、地域貢献につながるようボランティア養成や、就労意欲のある方への就業支援を実施している。 家庭教育の重要性が増すなか、子育ての孤立化への対応等が課題であり、家庭教育を支える地域人材の育成等の充実を図っている。 	
(2) 生涯学習の環境の整備		
図書館機能の充実 【中央図書館】	<ul style="list-style-type: none"> 平成17年度から19年度にかけてまちかど図書館を整備し、区民に身近な図書館として活用されている。 子どもの読書活動の推進では、おはなし会等行事を数多く実施しているが、子ども一人あたりの貸し出し点数が指標の目標に達していないため、啓発事業を一層推進する必要がある。 ICタグシステムの導入で、より効率的な運営が行われているが、図書館の運営体制については、他自治体の状況等を見ながら常に研究していく必要がある。 	
生涯スポーツ社会の実現 【青少年・スポーツ課】	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年度から実施している都立浅草高校温水プールの区民開放や、平成19年度から実施しているスポーツひろばにおけるニュースポーツ教室の充実など、区民の誰もが気軽にスポーツを行える環境を整備している。 総合型地域スポーツクラブの設立に向けて、より多くの地域住民の参画を促進し、住民のスポーツ活動につなげていく必要がある。 	
(3) 学習成果の活用促進		
学習成果の活用促進 【生涯学習課】	<ul style="list-style-type: none"> やまびこ塾の実施により、区民の学習の成果を生かす場を設け、更なる学習意欲の向上につなげている。 学習支援ボランティアについて、一層の活用を図るため、制度の更なる周知に努め、登録者確保を進めていく必要がある。 	

* 施策名称【】内は施策の主管課(平成25年度検証時)

小 柱		施策評価【平成27年度・28年度】結果 抜粋
施策名称		(2年間の主な成果・課題)
(1) 多様な学習活動の支援		
学習の機会と環境の充実 【生涯学習課】	<p>ガイドブックやセンターニュースの発行などにより、学習情報の提供の充実を図るほか、家庭教育や青少年教育等の取り組みを概ね行政計画どおり実施し、ライフステージに応じた多様な学習機会を適切に提供している。また、27年度からオリンピック・パラリンピック生涯学習講座を実施し、国際化社会に対応した学習機会の充実を図っている。</p> <p>(仮称)台東区民カレッジについては、内容の見直しを行ったため、整備に至っていないが、順調に検討を行っている。これらの取り組みにより、生涯学習に取り組む区民の割合は大幅に増加し、10年後のめざす姿に向けて着実に進んでいる。</p>	
図書館機能の充実 【中央図書館】	<p>郷土資料であるゆかりの文学・浮世絵や古地図等を活用した展示や講座を行政計画どおり実施し、台東区の歴史や文化に触れる機会の提供に努めている。子供向けには、おはなし会・あかちゃん絵本タイムのほか、新たに小・中学生向けブックリスト「本をひらいて」を発行するなど、子供の読書活動を推進しており、子どもの利用登録者一人あたりの貸し出し点数は、目標を達成している。</p> <p>しかし、利用登録者数及び利用登録者一人あたりの貸し出し点数については、順調に増加していないため、増加させる取り組みが必要である。</p>	
(2) 生涯スポーツ社会の実現		
スポーツに親しむ機会の提供 【スポーツ振興課】	<p>2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、区民のスポーツへの関心の高まりや区のスポーツ事業の充実に伴い、区民のスポーツ実施率やスポーツに対する満足度は向上しており施策の進捗は順調である。</p> <p>27年度から運営を開始した総合型地域スポーツクラブ、幼児運動教室など、新たに区民がスポーツに親しむ機会を充実したことにより、施策の指標である成人の週一回以上のスポーツ実施率は上昇し、自主的な生涯スポーツ活動が活発に行われる台東区に向けて着実な成果が見られる。</p>	
スポーツに取り組む場の充実 【スポーツ振興課】	<p>区立スポーツ施設の不足を解消するため、既存区有施設を活用し、27年度に新たに「たなかスポーツプラザ」を開設した。スポーツ施設の充実により、区内のより身近な場所でスポーツに親しめる環境づくりが図られている。また、スポーツ施設を常に良好な状態に維持するため、柳北スポーツプラザにおけるフットサルコートの改修工事等、計画的な維持修繕を実施している。</p> <p>施策の指標の「区立スポーツ施設の利用者数」は着実に増加しており、だれもが安全・安心して快適にスポーツに取り組む場の充実が図られている。</p>	

* 施策名称【】内は施策の主管課(平成29年度現在)

◆台東区基本構想 検証シート

生涯学習

基本理念	多様で快適なまちづくり
将来像	Ⅱ いきいきとした個性あるまち
基本目標	3 学びと交流の仕組みづくり
	<p>社会の動向は、人々の価値観や行動様式が多様化する中、生涯学習への意欲が高まっています。そのため、台東区では、すべての区民が生涯にわたって自ら学習し、心の豊かさや生きがいのある生活に取り組んでいく環境づくりをめざします。</p> <p>この基本目標を実現するために、生涯学習センターを核に、区民相互が学び合い、交流する仕組みづくりを進め、地域活動の活性化やまちづくりへの貢献が図られるようにしていきます。</p>

<参考指標> *「目標(36年度末)」は、長期総合計画(平成27年3月)で設定している達成目標

施策の指標			
指標名	16年度	28年度	目標 (36年度末)
生涯学習に取り組む区民の割合	20.5% (18年度)	75.3% (27年度)	60%
利用登録者数 うち 子ども(15歳まで)	66,000人 8,900人 (26年度)	66,417人 8,853人	70,000人 9,500人
利用登録者一人あたりの貸し出し点数	年21.2点 (26年度)	年21.2点	年23点
子ども(15歳まで)の利用登録者一人あたりの貸し出し点数	年22.9点 (26年度)	年27.5点	年25点

施策の指標			
指標名	16年度	28年度	目標 (36年度末)
成人の週1回以上のスポーツ実施率	38.8% (19年度)	59.8%	70%
区立スポーツ施設	5か所	6か所	増加
区立スポーツ施設の利用者数	年51万人	年62万人	年65万人

区の総括意見	<p>家庭教育の振興や青少年教育の推進、高齢者の社会参加を促す学習など、ライフステージにおける区民の様々な学習ニーズに応じた多様な学習機会を提供するほか、地域貢献に役立つ能力の向上を図り、生涯学習の機会の充実に取り組んだ。</p> <p>図書館においては、生涯学習を総合的に支援する施設として、まちかど図書館の整備、ICタグのシステムの導入など、図書館の利便性の向上や、子どもの読書活動の啓発事業の推進に取り組んだ。</p> <p>だれもが身近な地域で継続してスポーツに親しむことができるよう、「たなかスポーツプラザ」の開設や、総合型地域スポーツクラブの設立支援など、地域におけるスポーツ活動を推進した。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定を受けて、さらなる「生涯スポーツ社会の実現」をめざし、取り組みを充実するため、施策体系を見直し、新たに施策の方向性(小柱)として位置づけた。これにより、幼児運動教室やトップアスリートと区民の交流事業など、スポーツに親しむ機会の充実に取り組むほか、柳北スポーツプラザの改修工事など、スポーツ施設の充実に取り組み、区立スポーツ施設の利用者数は増加した。</p> <p>生涯学習の成果を地域活動の活性化やまちづくりへの貢献に活かすため、学習情報の提供の仕組みの検討や、生涯学習推進のリーダーとなる人材の育成など、区民相互が学び合い、交流する仕組みづくりを進めた。</p> <p>これらの取り組みにより、生涯学習に取り組む区民の割合や成人の週1回以上のスポーツ実施率が大幅に増加しており、『すべての区民が生涯にわたって自ら学習し、心の豊かさや生きがいのある生活に取り組んでいく環境づくり』をめざす基本目標の実現に向けて、着実に進んでいる。</p> <p>課題としては、生涯学習が個人の学びの充実に留まることなく、その成果を地域貢献や地域活動と関連付けて社会的に活用し、地域の問題を解決できるよう支援する必要がある。そのためには、(仮称)区民カレッジの整備など、区民ニーズに応じた多様な学習情報をわかりやすく提供し、地域課題の解決に向けて主体的に貢献することができるような仕組みが必要である。</p> <p>図書館においては、さらなる利用の促進のため、社会情勢や区民ニーズに即した資料収集や、多くの方の来館の契機となるような情報発信など、誰もが利用しやすい環境整備の取り組みを強化する必要がある。</p>
--------	--

学識経験者からの意見	<p>各施策の取り組みの方向性は適切であると考え。特に、家庭教育学級、青少年教育の推進、シニアライフ応援計画、子ども読書活動、幼児運動教室、スポーツ施設の充実は、貢献度が表れており、更に充実が期待される事業である。</p> <p>なお、家庭教育学級では、講話だけでなく、受講者参加型協同学習やワークショップ型研修も望まれる。区民ボランティアが指導者である青少年教育事業では、指導者や運営管理者に、危機管理や一人一人の児童・生徒に対する理解が一層望まれる。</p> <p>郷土資料の記録と整備は、台東区の歴史文化資料の整備という意義の大きい事業であり、着実に事業を推進していることを評価したい。一方で、専門性が高く、一般区民に馴染みがあるとは言い難く、啓発活動の工夫が望まれる。</p> <p>(仮称)台東区民カレッジについては、大変意義があり、今後の事業内容の進展に注目したい。区が実施する学習情報を一元化し、各学習事業の連携・ネットワーク化を図るとともに、学習成果をその後の地域活動に結びつける学びの循環の仕組みをつくることは、優れた考えである。区民への分かりやすさと事業効率の両面から期待は大きく、担当部・課の理解や認識の醸成と、組織横断的な連携・協力が必要である。</p> <p>また、各事業について、区民や関係機関に向けての啓発と広報活動の創意工夫が課題であり、インターネットや広報紙等に加えて、原始的だが、事業参加者やPTA連合会、町会組織、区民の文化・スポーツ団体への働きかけなど、人海戦術で汗を流すことが有効であると考え。</p>
------------	--